マナーが悪いのは外国人観光客だけなのだろうか

—日本文化の良さの再発見—

令和7年1月14日

3年〇組〇番 〇〇 〇〇

3年〇組〇番 〇〇 〇〇

3年〇組〇番 〇〇 〇〇

3年〇組〇番 〇〇 〇〇

要旨

本研究では、「日本文化のどのようなところを世界に広めるべきか」について、その中でも特に日本の誇りともいえる「マナーの文化」に焦点を当て、「日本のマナーの文化を外国人に知ってもらうにはどうするべきか」という問いを立て、論文をもとに考察を行った。島川崇（2007）『国境周辺地域におけるインバウンド観光の振興に関する考察－対馬を訪れる韓国人観光客を事例として－』によると、「日本人もグローバル化以前は他国でマナー違反をしてしまう外国人観光客であった」という。このことから、視点を変えてみれば、我々日本人も外国人観光客として他国に迷惑をかけている可能性があることが言える。そこで「マナーが悪いのは外国人観光客だけでなくお互い様なのではないか」という問いを立てた。岩倉総合高校 3 年生 43 人を対象にしたアンケート調査では、他国でマナー違反をしてしまうかもしれないという意識を持っており、他国でのマナーをととてもよく気にしているという結果が得られた。このことから、日本人は他国でのマナー違反を気にしているからこそ外国人観光客が日本でしているマナー違反行為を気にしてしまっているということが考えられる。これを踏まえて外国人のマナー違反行為の中でも、特に歴史的建造物への落書き、破壊行為をなくすために、歴史的建造物がある観光名所に、学生（主に語学系を専攻しており、異文化交流を通して語学経験を積むことを必要としている大学生）にツアーガイドのボランティアを募るという解決策に至った。

1 問い

(1) 現状

私たちの班では、日本文化を世界に広めたいと考え、日本文化のどんなところを世界に広めるかについて考えた。日本はおもてなしや思いやりなどといった「マナーの文化」が誇れるものである。その一方、外国人観光客が増加しているとともに彼らのマナー違反が深刻化しているという現状から外国人観光客に日本でのマナーを改善してもらうにはどうするべきかという疑問が生まれた。

島川崇（2007）によると、対馬を訪れる外国人観光客を事例に、「外国人（韓国人）観光客のマナーが悪いという世論は正しいのかの調査の資料の中には、我々日本人もグローバル化以前は、他国でマナー違反をしてしまうような『外国人観光客』であり、現地の人々はそんな無知な我々を受け入れてくれた。だからこそ、今度は私たちが外国人観光客を受け入れる番である」ということだ。

(2) 問題点

島川のいう通り、我々日本人は外国人観光客のマナー違反だけに目を向けているが、視点を変えてみると、私たち自身もマナー違反によって他国に迷惑をかけている「外国人観光客」なのだ。

(3) 解決策

私たち日本人も、無意識のうちに外国人にとってマナー違反な行動をしているのでは

ないかと考えられる。そこで、「外国人観光客のマナーが悪いと言われているが、マナーが悪いのは外国人観光客だけではなく日本人も同じように外国ではマナーが悪いと思われているはずで、お互い様ではないか」という問いを立て、探究する。

2 調査（1）

この探究では、日本人が抱く外国人観光客に対するイメージと、日本人の外国でのマナーに関しての意識の2つを知ることがを目的とし、岩倉総合高校3年生43人を対象にアンケートを行った。

アンケート内容

- ・外国人観光客の日本でのマナーはいいと思いますか。
- ・マナーが悪いと感じるのはどこの国の人が多いと思いますか。
- ・あなたが海外旅行に行った場合、その国のマナーを破る可能性はあると思いますか。
- ・あなたが海外旅行に行った場合、その国のマナーをどれくらい気にしますか。
- ・外国（韓国・欧米・シンガポール）のマナーに関するクイズ

3 結果（1）

- ・外国人観光客のマナーは悪いと答えた人が88%
- ・マナーが悪いと感じるのはアジア人と答えた人は77%
- ・海外旅行に行った場合、マナーを破る可能性はあると思うと答えた人は63%
- ・海外旅行に行った場合、その国のマナーは気にすると答えた人は100%
- ・クイズの正答率は、韓国でのマナーについては58%、欧米でのマナーについては58%、シンガポールでのマナーについては72%

4 考察（1）

アンケート調査で得られた「海外旅行に行った場合、その国のマナーを破る可能性がある」と答えた人が63%、「海外旅行に行った場合、その国のマナーは気にする」と答えた人が100%と全体的に高い結果であることから、私たちが想像していた以上に日本人は他国でのマナー違反を意識しているということが分かる。したがって、私たち日本人は他国でのマナーを気にするからこそ、外国人観光客のマナー違反が気になってしまうということが言えるのではないかと考えた。

外国人観光客の日本でのマナー違反を解決するためには日本人と外国人との間でマナーに関しての歩み寄り、寄り添い合いをしていくことが重要なのではと考えた。しかし、外国人観光客のマナー違反行為をすべて解決することは難しい。そこで、マナー違反行為の一つとして挙げられる「歴史的、伝統的建造物の落書きや破壊行為」を解決したいと考えた。また、違反行為の解決において、私たち日本人が外国人観光客を受け入れる姿勢を変えるべきか、外国人観光客の日本でのマナーを矯正し解決するべきかについて、後者の場合、外国人観光客には不快感を与えてしまい、日本人側も彼らに対して嫌悪感を抱きながら接してしまうというデメリットがある。その反面、前者であれば、日本人のよさであ

るおもてなしの心を生かし、両者ともに嫌悪感を抱くことなく、気持ちの良い状態で寄り添いあうことができる。このことから、日本人が受け入れの姿勢を変えるという方策について考えることにした。

私たちは、外国人専用ツアーを展開し、そのツアーガイドによって、観光地の歴史的・伝統的建造物を守る役割を果たしてもらうことを考えた。しかし、ガイドが数人で大人数の観光客をまとめ上げることの難しさや、建造物を守り抜くことができないという可能性、人件費がかかってしまうという問題点などがある。そこで、観光地の歴史的・伝統的建造物に「ツアーガイド兼見張り役」の人員を配置し、ツアーガイドを見張り役としてつけることを考えた。それにより、歴史、文化に対する知識を持っている人が、私たち日本人がその歴史的建造物を大切にしているということを外国人観光客に伝え、彼らの意識を変えることができると考えた。ただし、その実現のためには、観光地における歴史・文化の知見と、外国人観光客をもてなすために語学力とコミュニケーション力が求められる。そこで、その解決策として、語学系を専攻している、もしくは、日本の歴史・文化に興味を持っている大学生にツアーガイドのボランティアを募り、対象の建造物に学生ボランティアを配置することを考えた。この解決策のメリットは、学生が観光客にその建造物の知識だけでなく、その建造物が日本人にとって思い入れがあるものだということを説明することにより、若い学生の熱心な話を聞いた観光客が日本人の思いを理解し、共感し、建造物に危害を加えることがなくなるのではないかとということだ。それだけでなく、学生の話聞いたことで観光客が別の観光地を訪れた際にも、マナー違反行為をすることがなくなり、外国人観光客全体のマナーの質を上げることにもつながるのではないかと考えた。また、学生がボランティアを務めることで、学生が異文化交流や豊富な経験を積むことができるとともに、ツアーガイドとして英語を話すことができる人、日本の歴史や建造物に詳しい人を集めやすく、人件費削減も可能になる。

5 調査(2)

考察(1)の案の実現の可能性を探るため、岩倉総合高校3年生13人に「あなたが大学生になったとき、異文化理解や語学経験を積むために外国人観光客に向けたツアーガイドのボランティアをしてみたいと思いますか」というアンケートをとった。

6 結果(2)

ツアーガイドのボランティアをしてみたいかについてのアンケートでは、とてもしたい2人、少ししてみたい6人、あまりしたくない4人、絶対にしたくない1人という結果で、したいと答えた人が若干多い結果となった。

7 考察(2)

このアンケートは進路先が大学進学者以外に専門学校進学者も対象にアンケートをとった結果である。アンケート対象の全員が大学進学者ではないのにもかかわらず比較的ボランティアをしたいと答えた割合が高い傾向にあったため、今後、大学進学者で語学系を

専攻しようと考えている人や歴史や文化に興味を持っている人をアンケートの対象にした場合、上記の結果より多くの方がツアーガイドのボランティアをしたいと答えるのではないかと考えられる。

8 結論

この探究では、「マナーが悪いのは外国人観光客だけでなくお互い様なのでは」という問いを立てアンケート調査を行った結果、日本人が他国でのマナーを意識し、気を使いながら行動しているからこそ、日本のマナーに関する知識が乏しいことからマナー違反行為をしてしまう外国人観光客の言動が気になってしまうということが分かった。外国人観光客のマナー違反行為の中でも特に歴史的建造物への危害を無くすために、学生にボランティアでツアーガイドをしてもらうことで外国人観光客に日本人が歴史的建造物を守りたいと思う気持ちを共感してもらいながら、彼らのマナーを改善し外国人観光客全体のマナーの質を上げ、違反行為を減らすことができると考える。このことから、はじめは外国人に観光客にマナーを改善してもらおうという考えをしていたが、私たちが受け入れの姿勢を変えることでも外国人観光客に不快感を与えずマナー違反の改善ができ、日本の文化である「おもてなしの精神」を生かすことができるのではないかと考える。

9 感想

外国人観光客のマナー違反を改善することを目的として立てた問いではあったが、アンケートや先行研究を通じて改めて、日本人は思いやりの気持ちに厚く、優しい気持ちを持っている人種だということに気づいた。これからもこの思いやりやおもてなしといった「マナー文化」を日本の文化として大切にしていきたい。

10 参考文献

島川崇（2007）「国境周辺地域におけるインバウンド観光の振興に関する考察－対馬を訪れる韓国人観光客を事例として－」